

ふるさと講座・自然系第3回目の様子

冬の野鳥観察会

海カモメ・海カモ・海ワシを見よう！

2月3日（日）、参加者11名で開催されました。講師は、別海町立中春別中学校長藤井薫氏です。

今年度は、別海町と少し自然環境の違う場所、根室市に

て観察会を実施しました。落石漁港、花咲漁港、春国岱（風蓮湖）にて観察を行い、冬鳥27種を観察することが出来ました。なかでもワタリガラスがまとまって観察でき、めったにお目にかかれないとのこと。以下、観察できた鳥は下記の通りです。

●厚床

ヒヨドリ・シジュウカラ・ハスブツガラ

●落石漁港

オナガガモ・スズガモ・クロガモ、ヨシガモ、コオリガモ、シノリガモ・ワタリガラス・オジロワシ・オオワシ・ホオジロガモ・コクガン・カワアイサ・ウミアイサ・ノスリ

●花咲漁港・風蓮湖

カモメ・シロカモメ・オオセグロカモメ・トビ・ヒメウ・ウミスズメ・ハシブトカラス・ハシボソカラス・オオハクチョウ・ツグミ

「昔のくらしと道具」を調べる授業に郷土資料館が活用されています。

小学校3年生の社会科には、「昔のくらしと道具」という単元があります。2月は、この授業が開始され、4校148人の児童が訪れました。

数年前から、見学するだけではなく、実際に道具を使う体験を行っています。体験する道具は、「炭火アイロン」「火のし」「洗濯板」「湯たんぽ」「灯油ランプ」「せんべい焼き」「火ばち」で、使い慣れない道具に悪戦苦闘しながら、道具を使用してもらいます。なかでも、重たい、せんべい焼き器で、焼くせんべいは、おいしいと評判です。

便利な生活をしている中で昔の道具を使うと、準備などに手間がかかり、その取扱いも不便さを感じますが、昔の生活の中では、常に密着し関連性のあるもので、知恵と工夫が隠されていることがわかったようです。



「史跡旧奥行臼駅通所主屋」発掘調査から

平成28～30年度にかけて、実施されていた史跡旧奥行臼駅通所主屋の改修工事が、昨年9月をもって終了・完成となりました。明治43年に開設され、開設当時の中央棟、大正9年（1920）増築された北棟、昭和16年（1941）に増改築された南棟で構成される建物は、全解体、半解体を行い復元修理が行われました。

工事の中で、建物を恒久的に保存するためにコンクリート基礎を敷設することになりました。こうしたことから、地下を掘削する工事を行うことから、事前に当時の地下の状況を調査する必要性があり、復元工事と並行して、平成29～30年度発掘調査を行いました。およそ100年前の地下構造は、どのようになっていたのでしょうか。今月号から紹介したいと思います。

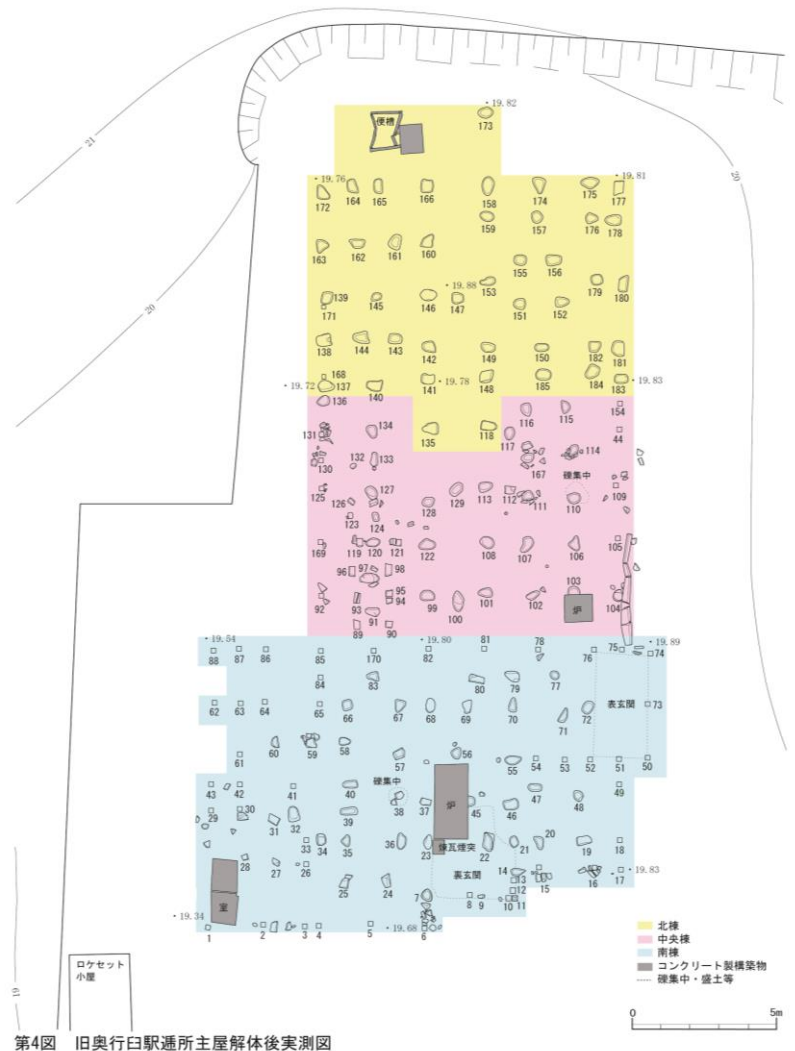
なお、正式な発掘調査報告書は、4月以降に刊行され、図書館などで読むことが出来ます。

●平成28年度の調査～その1～

南棟と中央棟は、建物の破損が大きく、全解体修理をしました。一方北棟は比較的保存状態が良かったことから、建物を揚屋（ジャッキアップ）して半解体修理となりました。

発掘調査は、まず、全解体、半解体された地下、礎石などの測量調査を行いました。

測量調査で確認した礎石は、①自然石玉石103個、②切石12個、③コンクリート基礎A（上16cm角・下25cm角・高さ75cm）44個、④コンクリート基礎B（上16cm角・下25cm角・高さ45cm・面取有）8個、⑤コンクリート基礎C（上13cm角・下13cm角・高さ、65cm・75cm）2個、⑥コンクリートブロック15個、⑦コンクリート1個合計185個でした。その他、炉が2カ所、便槽1カ所、盛土2カ所が確認されました。



第4図 旧奥行臼駅通所主屋解体後実測図

別海町郷土資料館だより No.236

発行日 平成31年3月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記 発掘調査の結果などは、もっと早くお知らせすべきことなのですが、調査報告書が出来上がるまで、発掘担当者として総括しまとめることが出来るまでと思ってました。先月末に原稿を全て完成させ、後は印刷が仕上がるまでとなりました。いつもながらギリギリの状態が続きました。(石渡)